

1. 職名・氏名 教授・塚本利幸2. 学位 学位 修士、専門分野 文学、授与機関 京都大学、授与年月 H3

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
① 担当科目名（単位数）	主たる配当年次等
社会学概論（2単位）	1年生
② 内容・ねらい	
社会学全般を概観するために、社会学説史から代表的な人物を取り上げ、各人の中心概念を解説していく。社会学の基本的なパースペクティブ（ものの見方）や考え方の習得を図り、社会的な諸事象を多角的に捉えるためのバックグラウンドを養成する。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	
社会学（社会理論と社会システム）は、社会福祉士と精神保健福祉士の国家試験の受験科目でもあるので、授業内容を理解・習得することで国家試験への対応が可能になるように工夫している。例えば、頻出事項に関しては、プリントにアンダーラインを入れることによって、4年生になった時点で、復習プリントして活用できるようにしてある。	
① 担当科目名（単位数）	主たる配当年次等
社会問題論A（2単位）	4年生
② 内容・ねらい	
デュルケームの犯罪の定義、トマスの「状況の定義」に関する議論、ベッカー等のラベリング・セオリー、キツセ&スペクターの社会構築論など、社会問題を理解するための分析枠組みについて整理し、その理解、習得を図る。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	
社会学の学説史の中に構築論的なパースペクティブの展開を位置づけるとともに、できるだけ具体的な分析事例を取り上げ、抽象的な理論に肉付けを与えることにより、受講者の理解を促進し、関心を持って授業に取り組んでもらえるようにしている。	
① 担当科目名（単位数）	主たる配当年次等
社会問題論B（2単位）	4年生
② 内容・ねらい	
社会構築主義の立場から、社会問題がどのように構築（定義）されていくのかについて分析し、社会問題を複眼的に捉えるためのパースペクティブ（視点）の獲得を目指す。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	
少年非行、児童虐待、交通事故等、さまざまな社会問題を取り上げ、社会問題について多角的に考える能力の獲得が図れるようにしている。また、積極的に時事問題を取り上げ、新聞記事などを利用することによって、受講者に興味関心を持って授業に取り組んでもらえるようにしている。	
① 担当科目名（単位数）	主たる配当年次等
基礎演習（2単位）	2年生
② 内容・ねらい	
ジェンダー問題（男女共同参画問題）に関する資料を読んだり、ビデオを観たりして、討論をおこなう。資料の選定に関しても全員で検討して決定する。毎回、報告者を決め、レジュメを作成し、それにもとづいて発表を行い、その内容を受けて全員でディスカッションす	

<p>る。プレゼンテーションの能力とディスカッションの能力とマナーを実践的に身に付けることを目指す。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ジェンダーに関わる時事問題に関する新聞記事や映画などの映像教材をできるだけ取り入れ学生の興味を引き出し、自発的に活発なディスカッションがおこなわれるよう工夫している。ゼミの司会（進行役）も学生に持ち回りで担当してもらい、学生の自発性を養うようにしている。</p>
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ソーシャルワーク特別講義A（1単位） 4年生</p>
<p>② 内容・ねらい 社会学の基本的な概念や主要な理論、代表的な社会学者、社会調査の実施方法やデータの統計的な分析手法について解説し、公務員試験（市町村や都道府県）の「社会学」や「社会調査」に関する設問に対応できるよう、理解の習得を図る。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 公務員試験への対応力の養成を目標としているが、それだけに留まらず、同時に、社会的なパースペクティブや調査スキルが習得できるよう工夫している。毎回小テストを実施し、理解の徹底と知識の習得を図っている。</p>
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 社会福祉調査A（2単位） 2年生</p>
<p>② 内容・ねらい 量的調査、質的調査に関する基本的な知識や実施に当たっての注意点について解説している。卒業研究等で調査を行う学生が、調査の設計、実施、分析を実施できる能力を身につけること、ならびに、社会福祉士の国家試験科目「社会調査の基礎」に対応できる知識の習得を目標としている。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 調査実務の時系列的な流れを考慮し、調査を実施する上で必要になる「見通し」を意識してもらえよう講義を構成している。単に知識を羅列的に教えるのではなく、調査全体の中での意味や位置づけを明確にすることで、なぜ、そうした知識や技術、配慮が必要になるのかを理解してもらい、実践への対応力が身に付くよう工夫している。</p>
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 社会福祉調査B（2単位） 2年生</p>
<p>② 内容・ねらい 福井県立大学の在学学生を対象に、小規模なアンケート調査を実施し、調査の実務の流れを経験する。自分たちで、調査を計画、設計、実施、分析することを通して、アンケート調査の困難さ、面白さを体験してもらい、調査に対する関心を養う。自分たちが立てた調査仮説を、統計的に分析、検証することで、実証科学の魅力を体感することを目標としている。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 実習形式の授業になっており、調査のテーマの決定、仮説の構成、仮説のクエスチョネアへの入れ込み、ワーディング、選択肢の選定、といった一連の作業をワークショップ形式で進め、データの分析結果をレポートにまとめる作業までを実際に体験する。学生が主体となって討論を重ね調査を実施することを通して、調査のノウハウの習得し、同時に調査への興味関心を深めていけるようにしている。</p>
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 卒業研究（4単位） 4年生</p>
<p>② 内容・ねらい これまで学んできた社会福祉学の4年間のまとめとして、学生が自ら選んだテーマに沿っ</p>

て自主的に研究を進め、論文としてまとめる。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	前期の授業では履修者が各自のテーマ、研究方法、研究の進捗状況について毎回報告し、全員でのディスカッションを通して、研究の深化を図る。後期は、適宜、全員でのディスカッションも行いながら、個別指導を中心に授業を進め、執筆が順調に進むよう配慮している。
① 担当目名 (単位数)	主たる配当年次等 福井を学ぶ (2単位) 1年生
② 内容・ねらい	オムニバス形式の講義の1コマを担当している。福井県の地域特性である人口移動の少なさが産業構造や雇用構造に基づくものであること、人口移動の少なさに基づく社会関係資本の豊富さが健康長寿に結びついていること、などを実証的なデータを通して示すことで、福井県の特徴について複合的な理解が得られることを目標としている。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	客観的なデータを統計的に処理することによって、要素間の結びつきを実証的に確かめることができる。そうした分析の面白さを通して、福井県の特徴について複合的・立体的に理解してもらえよう多くの図表を提示し、統計的な知識を前提にしなくても、目で見てわかるように講義を構成している。
① 担当科目名 (単位数)	主たる配当年次等 保健・福祉研究方法論 (2単位) 大学院1年生
② 内容・ねらい	「研究」の意義と成り立ち、人間(個人と社会)を対象とする研究の問題点、看護・社会福祉領域で行われる研究の思想と方法、社会調査・統計学・PCによるデータベース・データ集計・統計解析ソフトの利用など、初歩的技術を説明し、最後に「学術論文」とはどのようなもので、どのように作成すべきかを考える。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	オムニバス形式で行われる講義であり、塚本担当部分に関しては、仮説検証型の量的調査について、調査仮説の構成・仮説の構成要素の明確化(概念化・操作化)・質問文と回答選択肢の構成・仮説の検証の手法の各段階での留意事項について、理解が深まるよう工夫している。
① 担当科目名 (単位数)	主たる配当年次等 社会調査特論 (2単位) 大学院1年生
② 内容・ねらい	社会調査の基本的な手法について、量的調査を中心に解説している。調査仮説の構成、ワーディング、サンプリングの必要性と手法、データの入力方法、統計的な分析手法と留意点、記述統計と推測統計、等について指導している。修士論文の作成にあたって必要となるリサーチ・リテラシーの獲得を目指している。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	講義の前半は座学中心で行い、塚本が実際に実施した社会調査を事例に、調査の設計・実施・分析・分析結果のまとめ方について説明している。後半では、実際にPCで統計解析ソフトを使って、データ分析に関して演習形式で授業を行っている。できるだけ実践的な授業形態にし、修士論文の作成に向けてリサーチ・リテラシーが獲得できるよう工夫している。
① 担当科目名 (単位数)	主たる配当年次等 社会調査演習 (2単位) 大学院2年生
② 内容・ねらい	修士論文の作成にあたって必要となる社会調査に関する知識や技法、留意点について、個々の学生の論文のテーマや目的に応じた指導・助言を行い、修士論文が研究計画に沿って滞りなく進捗していくことを目指す。

<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 大学院の学生はリカレントの社会人がほとんどなので、各人の能力や仕事との兼ね合い、修士論文の進捗状況にあわせて、指導の内容や演習の日時などに関して、できるだけ弾力的な対応ができるように工夫している。</p>
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 修士論文指導（8単位） 大学院2年生</p>
<p>② 内容・ねらい 修士論文の作成にあたって社会調査を実施する学生に対して、社会調査に関する知識や技法、留意点について、論文のテーマや目的に応じた指導・助言を行うとともに、論文の書き方・まとめ方についても実践的な指導を行っている。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 大学院の学生はリカレントの社会人がほとんどなので、各人の能力や仕事との兼ね合い、修士論文の進捗状況にあわせて、指導の内容や演習の日時などに関して、できるだけ弾力的な対応ができるように工夫し、修士論文が研究計画に沿って滞りなく進捗していくように配慮している。</p>
<p>(2)非常勤講師担当科目</p>
<p>① 担当科目名（単位数） 開講学校名 社会学（2単位） 1年生 福井市医師会看護専門学校（2017年度以前～2019年度）</p>
<p>② 内容・ねらい 社会学の初学者への入門編的な内容とし、社会学の基本的な概念について分かりやすく解説し、社会的なもの（パースペクティブ）の見方（パースペクティブ）の習得を図る。看護師を目指す学生が対象ということもあり、医療社会学や家族社会学の内容を多く盛り込んでいる。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 毎回プリントを配布して、それによって授業を進める。社会学の理論や概念の説明に関しては、できるだけ具体的な例を示すことによって、抽象的になりすぎず、初学者でも興味を持ち理解しやすくなるよう工夫している。</p>
<p>④ 本学における業務との関連性 看護専門学校の多くでは社会学が必修になっているところが多い。看護師を目指す学生にとって社会的なパースペクティブの習得は有意義であると考えている。共通関連科目といった形で、看護学科の学生が履修できる科目を増やすことを考えてみたい。</p>
<p>① 担当科目名（単位数） 開講学校名 家族論（2単位） 1年生 福井市医師会看護専門学校（2017年度以前～2019年度）</p>
<p>② 内容・ねらい 家族について、社会的な観点から解説するとともに、社会システムの変化に伴って家族の在り方がどのように変化してきたかを学習する。福井県の地域特性と関係付けて、福井県の家族の特徴や在り方についても解説する。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 プリントとパワーポイントに従って授業を進める。自分自身のライフコース選択と関連づけて、家族の機能や課題について理解し、仕事や結婚、出産、育児、介護について自分なりのビジョンと問題意識を持ってもらえるよう工夫している。</p>
<p>④ 本学における業務との関連性 本学でもキャリア教育の充実が図られているが、働き方と家庭内で行われる不払い労働（家事）や育児、介護の分担は関連性が高い。ゼミ等を通して、学生にライフコース選択と結婚や家族とを関連付けて考える機会をできるだけ与えられるように留意していきたい。</p>
<p>① 担当科目名（単位数） 開講学校名 社会学（2単位） 1年生 敦賀市立看護専門学校（2018年度～2019年度）</p>

② 内容・ねらい
社会学の初学者への入門編的な内容とし、社会学の基本的な概念について分かりやすく解説し、社会的なもの（パースペクティブ）の習得を図る。看護師を目指す学生が対象ということもあり、医療社会学や家族社会学の内容を多く盛り込んでいる。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
毎回プリントを配布して、それに従って授業を進める。社会学の理論や概念の説明に関しては、できるだけ具体的な例を示すことによって、抽象的になりすぎず、初学者でも興味を持ち理解しやすくなるようこころがけている。
④ 本学における業務との関連性
看護専門学校が多くでは社会学が必修になっているところが多い。看護師を目指す学生にとって社会的なパースペクティブの習得は有意義であると考えている。共通関連科目といった形で、看護学科の学生が履修できる科目を増やすことを考えてみたい。
(3)その他の教育活動
2003年度から毎年、社会福祉士と精神保健福祉士の国家試験の対策講座を実施し、「社会理論と社会システム」ならびに「社会調査の基礎」の過去問、社会福祉士会・精神保健福祉士の模試について解説すると同時に、頻出事項について確認を行っている。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
① 論文
<ul style="list-style-type: none"> ・「アクティブシニアのICT利用とボランティア活動ー福井県で実施したアンケート調査の分析から3ー」、共著（アンケートデータの分析に基づくものであり担当箇所は特定不能）、『福井県立大学論集』第49号、2017年8月 ・「アクティブシニアのボランティア活動参加と社会関係資本ー福井県で実施したアンケート調査の分析から4ー」、共著（アンケートデータの分析に基づくものであり担当箇所は特定不能）、『福井県立大学論集』第49号、2017年8月 ・「女性活躍社会のイメージー誰がどのようにイメージしているのかー」、単著、『日本ジェンダー研究』第20号、2017年9月 ・「地域環境NPOにおける社会運動性と事業性ーNPO法人「びわこ豊穰の郷」の展開プロセスと会員の参加の様態をめぐってー」、共著（アンケートデータの分析に基づくものであり担当箇所は特定不能）、『京都府立大学学術報告 公共政策』第9号、2017年12月 ・「地域環境NPOの展開プロセスと参加層の変化ーNPO法人「びわこ豊穰の郷」の会員アンケート調査の3時点比較ー」、共著（アンケートデータの分析に基づくものであり担当箇所は特定不能）、『水資源・環境研究』第30巻2号、2017年12月 ・「アクティブシニアのボランティア活動参加と社会問題への関心ー福井県で実施したアンケート調査の分析から5ー」、共著（アンケートデータの分析に基づくものであり担当箇所は特定不能）、『福井県立大学論集』第50号、2018年8月 ・「地域環境NPOの持続的活動展開と会員層ーNPO法人「びわこ豊穰の郷」の会員アンケート調査の3時点クラスター分析ー」、共著（アンケートデータの分析に基づくものであり担当箇所は特定不能）、『京都府立大学学術報告 公共政策』第10号、2018年12月 ・「地域環境NPO会員の財源志向の変化：NPO法人「びわこ豊穰の郷」を事例として」、共著（アンケートデータの分析に基づくものであり担当箇所は特定不能）、『水資源・環境研究』第32巻1号、2019年6月 ・「アクティブシニアのボランティア活動参加と楮的制約条件ー福井県で実施したアンケート調査の分析から6ー」、共著（アンケートデータの分析に基づくものであり担当箇所は特定不能）、『福井県立大学論集』第52号、2019年9月
② 著書
<ul style="list-style-type: none"> ・『三世代近居の健康長寿学 福井・北陸・日本・世界』、杉村・石原・塚本〔編著〕（1章、4章、7章、8章を担当）、晃洋書房、2019年3月

<p>③ 学会報告等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アクティブシニアのボランティア活動参加の様態と構造的制約条件の関係」、日本地域福祉学会第31回大会（2017年6月）、単独 ・“The way of interest in social problems and volunteer activity among active senior citizens in Japan” Asia-pacific Joint Regional Social Work Conference 2017 (APSW 2017)（2017年9月）、共同報告（アンケートデータの統計的分析を担当） ・「アクティブシニアのボランティア活動参加の規定要因の総合的分析」、日本地域福祉学会第32回大会（2018年6月）、単独 ・“A comprehensive study on factors promoting participation in volunteer activities among active senior citizens in Japan” Joint World Conference on Social Work, Education and Social Development 2018 (SWSD 2018)（2018年7月）、共同報告（アンケートデータの統計的分析を担当） ・「社会関係資本が地域住民のメンタルヘルスに与える影響に関する実証的研究」、日本地域福祉学会第32回大会（2019年6月）、単独 ・“A study on the influence of social capital on the mental health of residents of local city in Japan” Asia-pacific Joint Regional Social Work Conference 2019 (APSW 2019)（2019年9月）、共同報告（アンケートデータの統計的分析を担当）
<p>④ その他の公表実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「女性の活躍推進は男性の意識改革から」、『公明』10月号（26-31）、2017年10月 ・「シニアのボランティア活動」、京都文化創生機構フォーラム「女性学・ジェンダー学の成果と課題」口頭発表、2018年1月 ・「福井における少子化克服ー人口減危機回避からの出発」、京都文化創生機構フォーラム「男女平等の実現と少子化抑止への対応」口頭発表、2018年7月
<p>(2)学会活動等</p> <p>学会でのコメンテーター、司会活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本ジェンダー学会第21回大会（2017年9月）、午前の部（個別報告）、司会 ・日本ジェンダー学会第22回大会（2018年9月）、午後の部（テーマ部会）、司会 ・日本ジェンダー学会第23回大会（2019年9月）、午後の部（テーマ部会）、司会 ・京都文化創生機構主催フォーラム（2019年6月）、コーディネーター
<p>学会での役職など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本ジェンダー学会 理事 2002年9月～現在 ・日本ジェンダー学会 副会長 2016年4月～2019年9月 ・京都文化創生機構 理事 2019年4月～現在
<p>学会・分科会の開催運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本ジェンダー学会第22回大会（2018年9月）、大会実行委員
<p>(3)研究会活動等</p> <p>① その他の研究活動参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井県立大学健康長寿研究会、2009年度～2019年度 ・福井県立大学ボランティア研究会、2012年度～2019年度 ・地域環境社会学研究会、2014年度～2019年度 ・京都文化創生機構ジェンダー学研究会、2017年度～2019年度 <p>② その活動による成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「多主体連携による持続可能な地域社会経営ー共創型県境ガバナンスの構築課程の検証ー」平成26～平成28年度科学研究費補助金基盤研究（C）研究成果報告書の発行、2017年3月 ・「女性学・ジェンダー学の成果と課題 女性学40年・ジェンダー学20年の研究・活動実践から」京都文化創生機構研究・活動報告書、2018年3月
<p>(4)外部資金・競争的資金獲得実績</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・ 2017 年度～2019 年度 科研費基盤研究（C）研究代表 交付額 455 万円 ・ 2017 年度 福井県立大学競争的資金（C 枠 地域貢献研究）研究代表 交付額 200 千円 ・ 2017 年度 福井県立大学競争的資金（C 枠 環境整備費）単独 交付額 40 千円 ・ 2019 年度 福井県立大学競争的資金（戦略的課題研究）研究代表 交付額 2320 千円
(5)特許出願

5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
<p>① 国・地方公共団体等の委員会・審議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 敦賀市環境審議会委員 2006 年度～2019 年度 ・ 坂井市男女共同参画審議会会長 2007～2019 年度 ・ 福井県共同募金会配分委員 2009～2019 年度 ・ 福井県男女共同参画審議会委員 2010～2019 年度（2016 年度から副会長） ・ 越前市男女共同参画審議会会長 2016～2018 年度 ・ 福井市総合ボランティアセンター運営委員会会長 2016～2019 年度 ・ 若狭町男女共同参画プラン策定委員会アドバイザー 2017 年度 ・ 福井県社協会長表彰専攻委員 2017～2019 年度 ・ 勝山市男女共同参画審議会委員 2018～2019 年度 ・ 滋賀県男女共同参画審議会委員 2018～2019 年度 ・ 南越前町男女共同参画審議会会長 2019 年度
② 国・地方公共団体等の調査受託等
③ （公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加
④ （兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動
<p>⑤ 大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 吉林大学・福井県立大学学術交流事業に参加、吉林大学看護学院で「Social Capital and Social Support in Healthy Ageing－Analysis of a Questionnaire Survey Conducted in Sakai City, Fukui Prefecture, Japan」を講演、2017 年 10 月
<p>⑥ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 越前町男女共同参画ネットワーク・地域連携講座 講師（福井県の地域特性と男女共同参画－みんなで考えよう！ 福井の女性・男性のこと－）（2017 年 1 月） ・ 福井市男女共同参画推進委員基礎研修 講師（福井県の地域特性と男女共同参画－みんなで考えよう！ 福井の女性・男性のこと－）（2017 年 5 月） ・ 敦賀市男女共同参画推進委員研修会 講師（福井県の地域特性と男女共同参画－みんなで考えよう！ 福井の女性・男性のこと－）（2017 年 6 月） ・ 福井市職員研修会 講師（アンケート調査の設計と分析の基本）（2017 年 8 月） ・ あわら市生き生きライフセミナー 講師（福井県の地域特性と男女共同参画－みんなで考えよう！ 福井の女性・男性のこと－）（2017 年 9 月） ・ 福井県「平成 29 年度市町男女共同参画担当職員意見交換会」 講師（女性のさらなる活躍に向けて）（2017 年 10 月） ・ 坂井市男女共同参画推進委員研修会「福井県の地域性と男女共同参画－みんなで考えよう！ 福井の女性・男性のこと－」講師（2018 年 5 月） ・ 福井市「輝く女性の未来予想図事業」羽水高校出前講座 講師（2018 年 6 月） ・ 全国新聞労働組合連合青年女性部「第 2 回全国学習集会 in 福井」 講師（福井県における女

<p>性活躍の現状と課題) (2019年5月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝山市男女共同ネットワーク「男女共同参画夕涼み講座」 講師 (福井県の地域特性と男女共同参画ーみんなで考えよう! 福井の女性・男性のことー) (2019年8月) ・あわら市生き生きライフセミナー 講師 (福井県の地域特性と男女共同参画ーみんなで考えよう! 福井の女性・男性のことー) (2019年9月) ・健康ひろしま21人材育成研修会 講師 (なぜか健康長寿の福井県を考えるーこころ・からだ・しゃかいの観点からー) (2019年10月) ・三国町・草津学区交換民児協 講師 (人と人のつながりのカー社会関係資本とボランティア活動参加ー) (2019年11月)
<p>(2)大学が主体となっている地域貢献活動等</p>
<p>① 公開講座・オープンカレッジの開講</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度前期公開講座 FPU OPEN COLLEGE「一歩先の社会福祉学へ」(第1回「統計データでみる福井の男女共同参画」)、2017年6月 ・平成29年度後期公開講座 FPU OPEN COLLEGE「アンケート調査の設計と分析の基本ーちゃんと分析しなきゃ、できなきゃもったいないー」(全4回)、2017年10月、11月 ・平成30年度前期公開講座 FPU OPEN COLLEGE「一歩先の社会福祉学へ 2018年度前期～社会福祉学の新しい可能性～」(統計データでみる福井の男女共同参画)、2018年6月 ・平成30年度前期公開講座 FPU OPEN COLLEGE「社会調査の設計と分析の基本ーちゃんと分析しなきゃ、できなきゃもったいないー」(全4回)、2018年7月 ・2019年度前期特別企画講座『地域特性から見る健康長寿学』(全4回)、第2回「三世代近居と健康長寿」、2019年6月 ・2019年度前期公開講座 FPU OPEN COLLEGE「社会調査の設計と分析の基本ーちゃんと分析しなきゃ、できなきゃもったいないー」(全4回)、2019年7月 ・2019年度後期特別企画講座『「福井学」シリーズ～様々なヒト・モノ・コトから福井を訪ねる～』(全4回)、第4回「なぜ人はボランティアに参加するのか?ー福井県の元気な高齢者を対象にしたアンケート結果からみる傾向ー」、2019年11月
<p>② 社会人・高校生向けの講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井市「輝く女性の未来予想図事業」羽水高校出前講座 講師 (2017年6月) ・福井市「輝く女性の未来予想図事業」福井県立大学出前講座 講師 (2017年7月)
<p>③ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ番組「ようこそ県立大学へ」への出演 (2019年5月)
<p>(3)その他 (個人の資格で参加している社会活動等)</p>

6. 大学の管理・運営

<p>(1)役職 (副学長、部局長、学科長)</p>
<p>(2)委員会・チーム活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入試副本部長 2017年度～2018年度 ・「F A A ふくいアカデミックアライアンス」入学者確保部門メンバー 2019年度 ・「研究等における人権擁護・倫理委員会ワーキンググループ」メンバー 2019年度 ・「教学 IR 部会」メンバー 2019年度
<p>(3)学内行事への参加</p>

- ・ 県内高校訪問説明会（鯖江高校） 2017年7月21日
- ・ 県内高校訪問説明会（仁愛女子高校） 2017年7月31日
- ・ 県内高校訪問説明会（三国高校） 2017年9月8日
- ・ 鯖江高校保護者入試説明会 2018年6月8日
- ・ 県内高校訪問説明会（鯖江高校） 2018年7月26日
- ・ 県内高校訪問説明会（福井商業高校） 2018年9月27日
- ・ 県内高校訪問説明会（高志高校） 2018年10月4日
- ・ 県内高校訪問説明会（武生東高校） 2019年7月26日

(4)その他、自発的活動など